

公共事業再評価調査

整理番号 H31-4

担当部課名	県土整備部 港湾空港課	電話番号	017-734-9677
		E-MAIL	kowan@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着工 <input type="radio"/> 長期継続 (年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5 年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	---

1 事業概要

事業種別	港湾事業		事業主体	<input checked="" type="radio"/> 県 <input type="radio"/> 市町村 <input type="radio"/> その他 ()			
事業名	港湾改修事業 (改修(地方)事業)		地区名等	仏ヶ浦港 長後地区	市町村名	佐井村	
事業方法	<input checked="" type="radio"/> 国庫補助 <input type="radio"/> 交付金 <input type="radio"/> 県単独 財源・負担区分		<input checked="" type="radio"/> 国 40 % <input checked="" type="radio"/> 県 47.5 % <input checked="" type="radio"/> 市町村 12.5 % <input type="radio"/> その他 %				
採択年度	平成 3 年度 (用地着手 平成 ー 年度 / 工事着手 平成 6 年度)						
終了予定年度	平成 38 年度 (平成 ー 年 ー 月 工期変更 (当初計画時 平成 33 年度))						
事業目的	<p>優れた景勝地として知られる下北半島仏ヶ浦への観光は、往時より陸路の便が悪く、昭和40年代、地元佐井村が仏ヶ浦へ小型栈橋を建設したのを契機に観光船の受け入れが本格化している。しかしながら、この小型栈橋も経年とともに機能低下が見られ波浪対策などの面でも安全性と利便性に課題を残すようになっていた。このため、平成3年度、新たに県を港湾管理者とする港湾区域を設定し、仏ヶ浦観光における観光船の航行安全性の向上と観光船利用者の利便性向上を図るため、防波堤、物揚場、歩道等の整備に着手したものである。</p>						
主な内容	区 分		再評価時(4回目)	再評価時(5回目)	増 減		
	防波堤		100 m	100 m	0 m		
物揚場		90 m	90 m	0 m			
泊地		1,350 m ²	1,350 m ²	0 m ²			
		2,050 m ³	2,050 m ³	0 m ³			
道路(歩道)		105 m	105 m	0 m			
・事業内容については、前回再評価時(平成26年度)と比較して変更はない。							
事業費	○前回評価時総事業費 2,414 百万円 (単位:百万円)						
		~28年度	29年度	30年度	31年度	小 計	32年度~ 合 計
	計 画 (うち用地費)	()	()	()	()	① 1,897	517 2,414
	く 年 月 変 更	()	()	()	()	② (0)	(0) (0)
実 績 (うち用地費)	1,572	0	25	90	③ 1,687	727 ⑤ 2,414	
	(0)	(0)	(0)	(0)	④ (0)	(0) ⑥ (0)	

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

A · (B) · C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗 69.9 % [③/⑤] () % [④/⑥]	年次計画に対する進捗 88.9 % [③/①] () % [④/②]
	主要工種 毎割合 (事業費)	防波堤 (1,701百万円)	63.7 %	83.8 %
		物揚場 (552百万円)	80.1 %	100.0 %
		泊地 (69百万円)	100 %	100 %
		道路(歩道) (92百万円)	100 %	100 %
説 明	<p>本プロジェクトで整備すべき施設のうち、泊地、道路(歩道)についてはすでに完了し供用開始している。物揚場については、平成13年度までに計画延長90mのうち70mまで供用開始しており、計画残の20mについては、利船舶の状況を見極めて、防波堤の完成後に着手する計画である。防波堤については、計画全体に対する進捗率が63.7%で現時点での主な残事業となっている。平成28年度以降、港湾事業予算配分額(社会資本整備総合交付金、当初予算)が従前の5割以下の水準で推移してきたことから事業期間を延長(H33→H38)することにより事業を完了させる見込みである。</p>			
問題点・解決見込み	<p>年次計画に対しては88.9%の進捗率であり、ほぼ計画どおり進捗している。事業を進めるにあたっての阻害要因はなく、順調に事業の進捗を図ることが出来る。</p>			
事業効果発現状況	<p>観光船利用者数は、事業実施前の旧栈橋では年平均51千人であったものが、平成21年には過去最高の82千人と大幅に増加がみられた。その後、震災の影響で観光船利用客数は平成23年には25千人まで減少したものの、事業効果の発現もあり平成29年は39千人まで回復してきている。</p>			

(2) 社会経済情勢の変化		(A) · B · C
社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】 港の背後地である仏ヶ浦は、一帯が断層海岸とされ急峻な断崖が連続し、石英質に富んだ凝灰岩が種々の侵食作用を受けて独特の景観を形成していることから、昭和16年に国の名勝天然記念物に、昭和43年には下北半島国定公園に指定されている。また、特徴ある自然や文化・信仰が現在も残る地域であることから平成28年には下北ジオパークの一部として日本ジオパークに認定された。このように優れた景勝地であることから、当地を訪れる人は全国規模で集まってきている。</p> <p>【県内の評価】 下北半島は仏ヶ浦のほか、恐山、薬研温泉、大間崎等観光資源が豊かであるため、青森県内においても旅行者には人気が高い地域である。 仏ヶ浦は、陸路の便が悪く海上からの上陸が便利であることから、下北半島で唯一、定期観光船が就航している。このため、港の整備を通じた観光船の航行安全性の向上、来訪者の利便性向上が求められている。</p>
	当地区における評価	平成30年度に観光船での来訪者を対象に実施したアンケート結果によると、来訪者のうち県内居住者は15%となっており、残る85%が県外からの来訪者である。特に多いのは東北地方よりも関東地方であり、その他の地域も全国各地にわたっている。このことから、仏ヶ浦は、県外地域から多くの来訪者の需要があることがうかがえる。
必要性	景勝地仏ヶ浦へ訪れるには、陸路では交通の便が悪く、また、その地形的特徴から急傾斜地での徒歩も伴う。一方、海上から景観を眺めながら、直接仏ヶ浦に上陸できる観光船利用ルートは、来訪者にとって老若男女を問わず安全で快適な移動手段となっているが、観光船が航行できる海象状況であっても、仏ヶ浦港の静穏が悪ければ接岸できずに引き返している現状である。また、観光船が接岸できても観光船利用客が安全で快適に乗降するにはより静穏な状態が必要となる。これらを改善・満足させるべく、仏ヶ浦港の港内静穏度（稼働率）の目標値である97.5%を確保するため、整備中である防波堤の着実な延伸を実施する必要がある。	a. b
適時性	防波堤が整備中である現在の仏ヶ浦港の港内静穏度（稼働率）は約93%であり、仏ヶ浦港に接岸できずに引き返した観光船の隻数は年平均約112隻となっている。これについては、防波堤の延伸により改善に向かうものであることから、事業は着実に継続していきたい。	a. b
地元の推進体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・佐井村観光協会からの要望がある。 ・観光船運航事業者からも事業に対する理解を得ている。 ・佐井村からは事業負担に協力していただいております、着実な事業進捗が望まれている。 	a. b
効率性	観光船の仏ヶ浦港への接岸及び、観光船利用者が仏ヶ浦への上陸の際の安全性向上が図られることにより、仏ヶ浦を含む下北地域の観光振興に寄与する。	

(3) 費用対効果分析の要因変化		A · (B) · C		
区分	主な項目	再評価時(4回目)	再評価時(5回目)	増減
費用項目 (C)	(1) 建設費	3,199 百万円	4,164 百万円	965 百万円
	(2) 管理運営費	515 百万円	655 百万円	140 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	3,714 百万円	4,819 百万円	1,105 百万円
便益項目 (B)	(1) 交流・レク機会増加便益	4,054 百万円	5,146 百万円	1,092 百万円
	(2) 移動コスト削減便益	856 百万円	319 百万円	△ 537 百万円
	(3) 残存価値	273 百万円	346 百万円	73 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	5,183 百万円	5,811 百万円	628 百万円
B / C		1.40	1.21	
費用対効果分析 (B/C)	<p>【費用対効果分析手法】（分析手法、根拠マニュアル等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」（平成29年3月 国土交通省港湾局） ・「港湾投資の評価に関する解説書2011」（平成23年7月 一般社団法人みなと総合研究財団） ・費用、便益ともに社会的割引率(4%)を考慮し、平成31年を基準年として現在価値化した。 			a. b
計画時との比較	<p>【計画時との比較における要因変化】</p> <p>B/Cが減少した主な要因は建設費用の増（評価基準年の見直しに伴う増）及び、便益項目の見直し（推計観光船利用客数の減）によるものである。</p>			a (b)

(4) コスト縮減・代替案の検討状況		(A)・B・C
コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 防波堤の水面上の表面仕上げについては、景観配慮の必要があり、事業当初は擬岩仕上げで計画していたが、経済的に安く同等の効果が得られる化粧型枠仕上げへ見直して、コスト縮減を図っている。	a. b
代替案	【代替案の検討状況】 防波堤の表面仕上げ方法を、擬岩工法から経済的な化粧型枠工法に見直した。基本構造、形状については、景観・安定性・経済性の観点から比較検討を行い、現場打ちコンクリート方式を採用しているものである。	a. b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点		(A)・B・C	
住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 平成30年度に仏ヶ浦港来訪者へアンケート調査を行い、事業に対する意識調査を行った。	【住民ニーズ・意見】 当該事業を金銭的価値に置き換えるための質問をしたところ、645人のうち72.9%が価値があるという認識を示した。	a. b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 ● 配慮している ○ 配慮していない (2)区分 ○ 農林地等の緑地や植生の改変 ● 地形や地盤の改変 ○ 水系や水辺の改変 ● 海域の改変 ○ 建設機械の稼働 ○ 土砂等の搬出・搬入 ○ 廃棄物処理等 ○ 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 ○ 基礎や地下建造物の建設 ○ 低層建築物の建設 ○ 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 ○ 高架構造物の建設 ● 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 ・防波堤整備にあたり、仏ヶ浦の優れた景観と調和するように、自然石風仕上げの化粧型枠を採用している。 ・工事施工に際しては、汚濁拡散防止膜の設置や、水中不分離コンクリートを使用するなど、環境への影響が小さい工法を採用している。	a. b	
地域の立地特性	(地域指定) 半島振興地域、振興山村地域、過疎地域 (災害記録) なし		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
評価理由	事業の進捗状況と費用対効果分析の要因変化が「B」評価であるものの、仏ヶ浦港では静穏度が計画目標に達しておらず、佐井村からも観光船利用者の安全性と利便性の向上が求められており、大きな阻害要因がなく、費用対効果(B/C)も依然1.0以上を確保していることから、対応方針を「継続」とした。
備考	

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	○ 対応方針(案)どおり ○ 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	○ 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)